

サケの稚魚放流 元気で帰ってきて

四月三十日、黒崎小学校（佐々木一夫校長、児童十六人）と鳥茂渡小学校（菅原伊保校長、児童十四人）では、合同で授精させ、黒崎小学校で育ててきたサケの稚魚や村漁協でふ化させたサケの稚魚合わせて約五千匹を普代川河口に放流しました。

昨年十二月、二つの学校で仲良く連携をとりながら取り組み、自分たちで人工授精、ふ化させ育ててきた稚魚は、約五匹に成長。沼田英雄教育長は「サケの命もみんなの命も同じように考えて大事にしてほしいと思っています。サケが大きくなって、普代の川に戻ってくるようみんなと一緒に心から祈りたいと思います」と子どもたちに呼びかけました。

鳥茂渡小四年の落合勇樹君は「サケの放流は初めての経験でした。頑張つて大きくなって戻ってきてください」と感動した様子。同六年の金子望みさんは、「卵から育つ様子はわからなかったけれど、大きくなってたくさん帰ってくればいいと思います」と目を輝かせて話してくれました。

黒崎小三年の下坪夏南さんは、「去年の十二月に採卵授精して小さい卵から目がでて、今ではこんなに大きくなりました。今年で三年目ですが、心を込めて放流しました」と、笑顔に向けてくれました。

「四年後には頑張つて大きくなって元気に帰ってきてね」と初めて川を経験する稚魚たちを気遣いながらみんなで声を掛け、旅立ちを見送りました。放流後、両校の児童たちは、四班に分かれ「きれいな川に戻つてきて」と願いを込め河口付近のゴミ拾いをしました。



サケの稚魚を優しく放流する子どもたち

悩まないで相談を

6月1日は人権擁護委員の日

六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。昭和二十三年に政令に基づいて人権擁護委員制度が設けられ、二十四年六月一日、人権擁護委員法が施行されました。民間人による基本的人権を守る機関の誕生です。これが人権擁護委員制度の始まりです。近年のわが国の人権状況

は、今までの人権問題に加えインターネットなどの新しいメディアを利用した差別事象やプライバシー侵害の問題が発生し、人権問題は多様化しつつあります。このように、人権を侵害しようとするものに対し、身近な地域社会を監視し、人権擁護の活動を行っているのが

久慈地域施策評価・計画推進懇談会の委員を募集!

久慈地方振興局では、施策評価システムを本格実施することになり、新たに設置する久慈地域施策評価・計画推進懇談会の委員を次のとおり募集しています。



- ▶ 募集期間… 6月30日(月) まで
- ▶ 内容… 懇談会では、地域のニーズを踏まえた施策の展開とその評価の客観性や透明性を高めるため、さまざまな意見や提言を寄せていただきます。
- ▶ 申し込み・問い合わせ先… 久慈地方振興局企画総務部企画振興課 (☎0194-53-4981・FAX53-1720)

- 「人権擁護委員」です。村には法務大臣から委嘱された緑区の佐藤勲さん(☎2808)堀内の熊谷榮子さん(☎2737)そして、中央区の和村淑子さん(☎2446)がいます。相談は無料で、秘密は守られます。お気軽にご相談ください。
- 人権擁護委員の日を記念し、次のとおり特定人権相談所を開設します。
- ◆「人権擁護委員の日」記念行事
- ▽日時：五月二十九日(木)午後一時三十分～午後三時
 - ▽場所：岩泉町「岩泉高等学校第一体育館」
 - ▽内容：講演「生きるって素晴らしい」講師ライフカウンセラー 田原米子氏
 - ◆「特定人権なんでも相談所」
 - ▽日時：六月七日(土)午前十時～午後三時
 - ▽場所：宮古市保久田「宮古市中央公民館分館」
 - ▽相談員：公証人、人権擁護委員、法務局職員など